

<b>団体名</b>	海田町	<b>所属</b>	企画課	<b>他団体等との連携</b>	地域住民
<b>連絡先</b>	(082)823-9212				

<b>取組事例名</b>	住民活動団体「西国街道・海田市ガイドの会」の立ち上げ	<b>取組期間</b>	平成22年度～平成23年度
--------------	----------------------------	-------------	---------------

### 取組の概要 ～ ワークショップを通じた「ガイドの会」の結成

海田町の貴重な地域資源である“西国街道”について、それを活用できていない行政と歴史や文化に興味がある住民が地域情報として発信する方策を協働でつくりあげる。

### 取組の背景 ～ 地域資源とマンパワーの有効活用

「西国街道」は、海田町の貴重な地域資源としての認識はあったが、これまで行政としてこれを活用したまちづくりはあまり行われておらず、町の魅力としての発信方法を検討していた。

一方、住民からは「町の資源を活用したまちづくりを行いたい。」との声があがっていた。住民団体として海田郷土文化研究会など町内の歴史や文化を研究するグループは以前から存在していたが、西国街道周辺の貴重な地域資源についてグループ内で研究に努めるのみとなっていた。

### 取組のねらい ～ 継続して活動できる体制づくり

- (1) ワークショップにより、ガイドを行える人材の育成、ガイドを行う会の結成、ガイドツアーで使うマップの作成をする。
- (2) きっかけは行政からの働きかけであるが、最終的には住民主体の組織を作り、協働で町の魅力発信をする。

### 取組の具体的内容 ～ 「“(仮称)西国街道時々〇〇ガイドの会”結成に向けたワークショップ」

町内の郷土史研究会などに声を掛けると同時に、広報などで一般公募し、全4回のワークショップを開催した。開催にあたっては、(有)グリーンプリーズの平木久恵さんに全体コーディネートを依頼した。

#### 《第1回 「まちガイドのポイント」と「会の目指す方向性について」》

西国街道の港町として栄えた草津を舞台にボランティアガイドを行う「草津まちづくりの会」の会員をお招きし、参加者にまちガイドのポイントを講義していただいた。また、今後やりたいことについて意見交換をした。

#### 《第2回 「海田市の歴史」と「フィールドワーク」》

ガイドのフィールドとなる「海田市」の歴史の概要について学ぶとともに、フィールドワークでガイドする場所、資源の発見を行った。

#### 《第3回 「フィールドワーク」と「モニターツアーのルート設定」について》

第2回で回りきれなかった部分を回り、モニターツアーに向けたルートの設定を行った。

#### 《第4回 「モニターツアーの準備」と「会の組織づくり」について》

モニターツアーで使うマップづくりや時間配分、役割分担をし、会の名称及び役員を選出した。



## 取組を進めていく中での課題・問題点 ～ はじめの一步と自主的な活動

参加者は、郷土史や文化財に興味はあるもののガイドは初めてという方がほとんどで、ガイドの開始にあたり、十分に勉強をして知識を深めてからではないと他人を案内するのは難しいと不安を感じている方が多かった。

また、設立された住民活動団体が、行政に左右されることなく継続して発展していくためには、団体の自主的な活動が必要不可欠であった。

## 創意工夫した点 ～ 実践の積み重ねと必要最低限のサポート

### (1) 短期間で実践を重ね、自信をつける

ア 経験不足による不安は経験によって補うほかに方法はないため、全体コーディネーターに「とりあえずやってみよう」と声を掛けてもらい、参加者の意欲をかきたてた。

イ 個人の負担を軽減して取り組みやすいようにするため、まずはガイドポイントごとの担当者を決めた。

ウ ワークショップ終了後モニターツアーを実施するまでの間に、お互いを案内し合う方法で毎週末計4回の練習ガイドを実施し、経験を積んだ。

エ 事前に郷土文化研究会に声掛けをし、ワークショップ参加者として専門家に加わっていただいたことも他のメンバーの刺激となった。

### (2) 住民＝主役、行政＝サポート役

ア 初回のワークショップの際に、住民の皆さんが主役であり、行政はサポート役である旨をしっかりと説明し、当初より、会の設立後1年間に限り会の運営に関するサポートを行うが、その後については自主的な運営を求めることで参加者と共通認識を持っていた。

イ 当初は全3回のワークショップを予定していたが、しっかりとした組織づくりを行うため進捗状況に合わせ計4回の開催とするなど、臨機応変に対応した。

ウ 住民主体の組織とするため、ガイドの会設立時は組織内の人事等に関わらなかった。

エ ガイドの会設立後は、内部事務に極力かかわらず、会の事務局での調整を依頼している。

オ 財政面では、ガイドを行う際に最低限必要なガイドマップの作成を初回のみ町で行い、補助金等の予算措置は行っていない。自主財源の確保に向け、各種助成金などの情報提供をしている。

## 取組の成果（効果） ～ 主体性を持った活動により、町の魅力を広く発信

### (1) 「西国街道・海田市ガイドの会」の設立と「夢街道ルネサンス」認定

参加者には、今後の活動に向けて意欲的に取り組んでいただき、毎回のワークショップを盛況のうちを終えることができた。終了後、平成23年4月に「西国街道・海田市ガイドの会」が正式に設立され、年間500名以上をガイドしている。また、同年、会の活動をきっかけに「西国街道・海田市」が夢街道ルネサンス認定地区に認定されたことで、メディアに大きくとりあげられることも増え、海田町の魅力の一つとして町内外に発信することができている。

### (2) 主体性を持った活動の展開

当初から住民の皆さんが主役という意識のもと開催したため、ワークショップに主体的に取り組んでいただくことができた。行政がすべてを準備した上でガイドをするボランティアを募集するのではなく、会の方向性からルートまで参加者によって決定した上で会を発足させたため、スタートは行政発信であったが、メンバーは自分たちの団体という意識を強く持って活動することができている。

## 今後の展開 ～ 側面的サポートを継続し、まちづくりに協働で取り組む

今後も、会の運営に関して側面的なサポートを継続していく。イベント等で多くの方にPRする機会において、協働で町の魅力を発信するとともに、会の活動の活性化に繋がるよう取り組んでいく。

## 他団体へのアドバイス ～ 長期的ビジョンを持った企画立案

ワークショップの開催にあたっては、広く参加しやすい場とするため、想定される参加者に応じた時間設定をする必要があり、今回はすべて土曜日に開催した。

行政からの発信により住民活動団体を立ち上げた場合、その後の活動が課題となることがあるが、継続して発展させていくためには住民の自主的な活動が必要不可欠である。今回のワークショップは、当初から住民主体を主眼において計画したことで一定の成果をあげることができた。また、自主的な活動に向けては、会長、事務局長等役割を分担した上での組織づくりが必要である。テーマによる世代の違いはあるが、団塊の世代である退職者にはパソコンスキルなどを持ち合わせた有能な人材が多く、まちづくりへの貢献が期待される。